

## SDGs 17 実現を目指すグローバルスクール上高

北海道上ノ国高等学校 校長 佐々木 雅 康

担当者 長 澤 萌

### 1 本校の ESD の特徴

北海道上ノ国高等学校では、各教科の授業や上高英語プロジェクト（Kamiko English Education Project=KEEP）の活動、第1・2学年の総合的な探求の時間で実施する活動（上ノ国町の特色を知る活動、世界に貢献することを目指す活動など）を通じ、地元地域である上ノ国町の魅力を国際社会へ自信を持って発信できるグローバルな精神を育成するよう努めています。

今年度は、活動分野として「環境」、「国際理解」、「平和・人権」及び「地域遺産学習」に重きを置きました。

また、SDGs 17 の目標の中でも特に「1. 貧困をなくそう」、「2. 飢餓をゼロに」、「4. 質の高い教育をみんなに」、「5. ジェンダー平等を実現しよう」、「10. 人と国の不平等をなくそう」、「11. 住み続けられるまちづくりを」、「12. つくる責任つかう責任」、「14. 海の豊かさを守ろう」、「15. 陸の豊かさを守ろう」、「16. 平和と公正をすべての人に」及び「17. パートナリシップで目標を達成しよう」を重視しました。

### 2 活動・全体計画

本校では、各授業や KEEP の活動を通じて、各国の文化に触れたり、世界にある諸問題の解決に向けて、生徒自らが自分達にできることを考え、行動できるよう働きかけました。

例えば、英語科では、KEEP を中心に「ユニセフ募金」や「ユネスコ世界寺子屋運動」、さらに「SDGs 4 教育キャンペーン 2021」や株式会社ユニクロ・GU と協力して実施する「届けよう、服のチカラプロジェクト」等の国際貢献活動を地域の協力を得ながら行いました。

そして、第1・2学年の総合的な探究の時間では、地域探究学習として上ノ国町の魅力や課題を様々な観点から発見し、理解するよう活動しました。今年度は、新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため中止となりましたが、例年、本校の第2学年では、町内の各事業所等への訪問や地元住民の方々へのインタビュー等を行い、その中で出現した課題の解決に向けた方策を上ノ国町役場の協力のもと「ふるさと高校生議会」で提案しています。

これらの活動のねらいは、様々な言語活動を通して生徒のコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力の向上を図ることや、上ノ国町を支える若い世代として町の様々な問題を解決し、より良くしていこうと活動することで、上ノ国に生まれたことを生徒や町民が誇りに思えるような魅力溢れる町づくりを行うことにあります。

また、世界にある多くの問題を生徒が自らの課題として認識し、身近なところから取り組むことで解決に繋がるといった価値観や行動を促すよう努めています。

### 3 活動事例

今年度、本校で行った「ユニセフ募金」や「ユネスコ世界寺子屋運動」では、KEEP のメンバーが募金や書き損じハガキ等の寄付を、学校内だけではなく上ノ国町のみなさんにも呼びかけ、それらを寄付し、戦争や貧困など様々な理由で教育の機会に恵まれない子ども達へ学びの場を提供するよう努めました。

また、今年度は、新型コロナウイルス感染症蔓延防止等措置のため中止となりましたが、英語科で「English Cooking」、家庭科で「郷土料理調理実習」を計画していました。

English Cooking では、バレンタインスイーツ作りを計画していました。日本では「女性から男性にチョコレートを贈る」習慣がある一方で、外国では「男性から女性」だったり、性別問わずにそれぞれが大切な人に贈り物をします。英語科の授業では、「生徒が世界に目を向ける、視野を広くする」というねらいを持って、このような文化の違いを事前学習として用いることを考えていました。作成するスイーツは、上ノ国町の銘菓である「かたこもち」を町民の方にご来校いただき、指導いただきながら作成する予定でした。このように地域と学校が連携した活動を通して、生徒の教育を深めていきたいと考えています。

家庭科では、「郷土料理調理実習」を計画していました。上ノ国町は、海と山に囲まれており、沢山の海産物や農産物が町に活気をもたらしています。海の幸を使った名物のくじら汁やくじら素麺は、上ノ国町の郷土料理として長く愛されています。農産物ではサヤエンドウの収穫量が北海道で第2位を誇り、オリジナルレシピが多く開発されるなど町の特産品として広く知られています。本校では、地域に根ざした教育の一環として、これらの特産品をふんだんに活用した上ノ国町の郷土料理を授業で取り扱っています。この授業を通して生徒達には、海や山に囲まれた上ノ国町に育ったことに誇りを持ち、それらのかげがえのない資源を受け継ぎ守っていくことの大切さを分かってもらえるような教育を実践しています。今後は、漁業協同組合や農業改良普及センター等との交流を深めていき、そして生徒には上ノ国町の食の豊かさをいっそう体感してもらいたいです。

なお、今年度実施できなかった English Cooking と郷土料理調理実習は、次年度行う予定です。

#### 4 成果と課題

ユネスコスクールとしての実践を通して、特に「生徒」や「学校」の観点において成果を実感しています。

1点目の「生徒」については、ユネスコスクールの実践を通して地域や世界における課題解決やさらなる発展のために自分達にできることを考える力が育まれてきています。今後は、そのような考えを実際に行動へと繋げることができるように働きかけます。また、生徒のプレゼンテーション能力も高まってきています。各学習の後に成果発表会等を設けることで、生徒は学んだことを保護者や地域の方々へと伝えることができています。

2点目の「学校」についてですが、地域探究活動や地域と連携した国際貢献活動を通じ、学校の教育活動をより深く地域に知ってもらえます。加えて、学校と地域とが協同することで、生徒の学びを深めることができています。

一方、課題としては、他の教科・科目における ESD への取組が見えにくい状況にあることです。今後は、各教科・科目の取組を校内でどのように情報共有すべきか検討が必要です。また、今ある課題を克服し、次年度はより深くユネスコスクールとしての実践を行っていきます。

